

社会貢献

- 260 [社会貢献](#) ⊙
- 261 [環境価値](#) ⊙
- 262 [社会価値](#) ⊙
- 268 [経済価値](#) ⊙

社会貢献

技術力・ノウハウの社会への還元、社員による人的支援も含め、社会貢献活動を実践しています。

エプソンは、事業活動そのものが社会に貢献するための取り組みであると考えています。

自社の強みを活かすとともに、共創によって、さまざまな社会課題の解決に取り組んでいきます。

事業活動で手が届かないところには、社会支援活動として、寄付や人的支援などを行いながら社会に貢献していきます。

社会支援活動の基本的な考え方

エプソンの社会支援活動は、

- SDGs達成に貢献します
- 持続可能でこころ豊かな社会の実現を目指します
- 世界の各地域に根差した活動を展開します



長期ビジョン

先進国／開発途上国など環境は違っても、毎日が充実しこころ豊かで健康に暮らせる「社会の幸せ」の実現を目指す

重点活動

- 環境価値：地球環境と産業の共生
- 社会価値：社会課題解決と精神的・文化的な豊かさ
- 経済価値：安定的な経済的付加価値の再配分

社会支援活動実績

2023年度 11.5億円

環境価値

目指す姿

コミットメント

アクション

【環境価値】

地球環境と産業の共生

循環型社会の推進など
による自然との共生森林・水質保全
(生物多様性)地下資源
利用削減次世代教育
(環境)

エプソンは、環境価値に関する社会支援活動として、森林・水質保全 (生物多様性)、地下資源利用削減、次世代教育 (環境) の分野に取り組んでいます。

森林・水質保全 (生物多様性)

エプソンは健全な生物多様性を保つことが事業活動や社員の生活を維持する上で重要だと考えています。



次世代教育 (環境)

PaperLab (ペーパーラボ) 再生紙を使ったノートを子どもたちへ寄贈 (日本)

2022年度より、当社の独自技術「ドライファイバーテクノロジー」を応用した乾式オフィス製紙機PaperLabで、社内古紙から再生したノートを小・中学校に寄贈する取り組みを進めています。2024年7月末までに累計29市町村、延べ10万冊を寄贈しました。このノートには当社の森林保全の取組みとPaperLabの紹介も掲載しており、これをきっかけに子どもたちに紙の循環がSDGsの掲げる目標達成に貢献できることを伝え、学校での環境教育に役立てていただいています。



また、学校や地域などの要請に応じ、社員による出前講義や受け入れ教育も行っています。

社会価値

目指す姿

コミットメント

アクション

【社会価値】

社会課題解決と
精神的・文化的な豊かさ

安心、安全で
こころ豊かな暮らし

地域貢献

医療・福祉

教育・文化

エプソンは、社会価値に関する社会支援活動として、地域貢献、医療・福祉、教育・文化の分野に取り組んでいます。

地域貢献

時計組立教室の開催(日本)

当社の歴史は、大和工業という時計工場から始まりました。長年培ってきた時計製造の技術と、それを扱う匠を有しています。

地域の小・中学生を対象にした時計の組立教室の開催を通して、ものづくりの楽しさや面白さを体験していただいています。受講した子どもたちは、「腕時計にあんなに小さくて細かい部品が入っているなんて知りませんでした。小さい穴に部品を入れるのは難しかったけれど、やさしく教えてくれたり、手伝ってくれたりして、とてもうれしかったです」と達成感を味わうとともに、地域産業への理解を深めていました。



スワコエイトピークス ミドルライアスロン大会を支援(日本)

2022年より、この大会を支援しています。この大会は諏訪湖周辺エリアから八ヶ岳山麓エリアを巡る約88kmを駆け抜ける大会です。

当社は技術面においても、センシング技術を活用したGPSを提供して、選手が「今、どこを走っているか」を見える化し、安心・安全な大会を支えています。



2024年度大会



2022年度大会

■ 各地域の花火大会への協賛(日本)

当社は、地域社会の活性化支援のために、各事業所がある地域の花火大会に協賛しています。諏訪地域、塩尻、安曇野、箕輪、別府などです。

そのうち、本社事業所を置く長野県諏訪市で開催される諏訪湖祭湖上花火大会には1956年から協賛しています。湖上ならではの水上大スターマイン、周りの山々に響き渡る迫力ある花火の音など、圧倒的なスケールで花火の醍醐味を味わうことができます。この全国屈指の花火大会は、諏訪地方を代表する夏の風物詩のひとつです。



■ 医療・福祉

■ 障がいをもつ子どもたちとの交流(シンガポール)

Epson Singapore Pte. Ltd. (ESP) 社員のボランティアが、レインボーセンター(療育施設)のスタッフと協力し、障がいをもつ子どもたちの公園への遠足をサポートしました。私たちにとって、子どもたちとコミュニケーションをとり、親しくなるさまざまな方法について学ぶことができた、刺激的な一日でした。

私たちは誰もが安心して自分らしくいられる環境を作り出し、ともに成長していくことを目指しています。



■ 「290日社会貢献活動」の実施(ドイツ)

Epson Deutschland GmbH(EDG)は、2008年度から「290日社会貢献活動」に取り組んでいます。この活動では、約290人の社員全員がそれぞれ自分の都合の良い日に1日有給休暇を取り、EDGが所在するメアブッシュ市周辺の社会福祉施設や教育施設でボランティアを行い、地域社会に貢献しています。

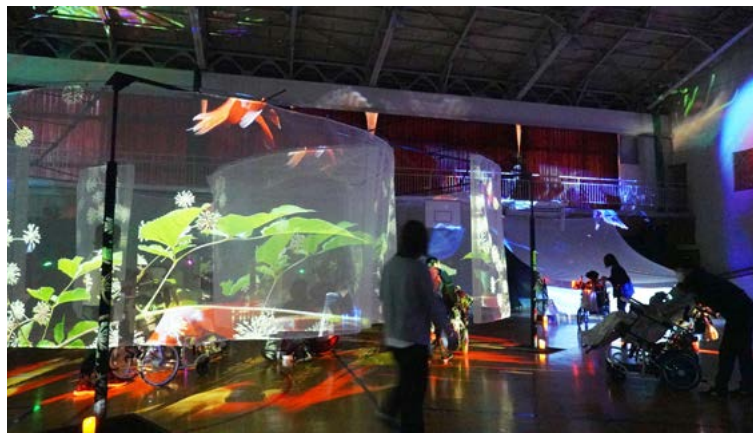
活動は多岐にわたっています。2023年度は、特別な教育支援が必要な子どもたちのために校庭におもちゃを保管する倉庫を建設したり、河川敷の清掃、高齢者の方の家事手伝い、動物愛護団体の厩舎の修繕、困っている方たちを支援するためのノートパソコンの寄付などを行いました。



■ プロジェクションによる映像表現を活かした「ゆめ水族園」の実施(日本)

当社は2015年から、全国の病院や特別支援学校などに、プロジェクションによる映像表現を活かした映像空間「ゆめ水族園」をお届けしています。「ゆめ水族園」はファンタスプロジェクション (Fantas Projection) をベースに、映像、音楽、揺れるスクリーンを組み合わせ、やわらかな空間を作り、視覚、触覚、聴覚などを通じて豊かな感覚刺激体験をお届けする活動です。2023年度は全国14施設で実施し、計5,119人に体験していただきました。運営には社内公募に応じた社員が参加し、会社は社員が業務として取り組むことを支援しています。近年では、コロナ禍により社員の施設訪問が困難な中、機材 (Fantas Car: 移動型映像投映車) の貸し出しを実施しています。貸出期間中、各施設が独自に工夫しながら有効にご活用いただき、2023年度は全国15施設で、計2,673人に体験していただくことができました。

施設の皆さんやご家族からは、「投映する映像に手を伸ばしたり笑顔を見せてくれたりした」「病院から出ることが難しい子たちが、病院内で非日常的な体験ができ、素敵な思い出になった」など、多くの感想をいただきました。当社は今後も引き続き、全国に「ゆめ水族園」をお届けしていきます。



■ 献血活動への協力(世界各地)

エプソンでは、社員を対象にした献血活動を毎年実施しています。



日本



インドネシア



米国



中国

教育・文化

子どもたちへの教育支援(インド)

Epson India Pvt. Ltd.(EPIL)は、未来を担う子どもたちへの教育が重要であると考え、経済的に困難な子どもたちに焦点を当てた支援活動を行っています。過去数年にわたり、EPILが所在するインド南西部のカルナータカ州、南部のタミル・ナドゥ州、北部のウッタル・プラデーシュ州、西部のマハーラーシュトラ州の子どもたちが通う公立学校へ書籍やノート、リュックサックなどを配布する活動をしており、その配布先の学校数は年々増えています。2024年度は539校、42,480名に配布しました。子どもたちからは、「学校で使う本やノートをもらい、勉強の役に立っています」と喜びの声を頂いています。



青少年1万人を対象とした教育プログラム「New Horizons」(欧州)

Epson Europe B.V.は、2019年に欧州、中東、アフリカ地域の青少年1万人を対象とした教育プログラム「New Horizons」を立ち上げました。この活動は、若者の創造力を引き出し、持続可能な社会への理解を高めることを目的とし、エプソンが長年蓄積してきた技術とノウハウを活かしています。

2020年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受け、当初の実施計画を変更する必要がありオンラインでの活動が主となりましたが、ドイツ、イタリア、イギリス、スペインにおいて、当社のサステナビリティ担当マネージャーより持続可能な社会に関する教育を展開、中学生・高校生・大学生 計4,684名に対しプレゼンテーションを行いました。またイタリアにおいては、480名の教師と持続可能な社会についてディスカッションを行いました。経営と企業の責任について考える機会を提供すると同時に、若い世代の考える環境問題や自らの役割について、また彼らの企業への期待を知る絶好の機会になりました。



■ デジタル捺染により服飾専門学生を支援(日本)

2020年度より、文化服装学院(東京都)のファッション高度専門科4年生を対象に、デジタル捺染技術を活用した卒業制作のプリントサポートを行っています。それによって、学生の皆さんは、自身のオリジナルデザインの衣装作品を仕上げています。

学生の方から

- 今までの衣装づくりでは、希望する色を再現するのに20回ぐらいプリントを試しても仕上がりに満足いかず、妥協するしかないと考えていた。エプソンさんの測色器を合わせて使い、特にこだわっているデザインの色をイメージに近づけるよう修正しながら進め、満足のいく作品に作りこむことが出来た。
- 布地に裁断するための線も併せてプリントできるため、線に沿って切ればすぐに縫製できたので、制作時間を短縮できた。



デジタル捺染技術

アパレル業界では、製品の売れ残りによる廃棄ロス、染色工程での水の大量使用などが問題となっています。これらの問題に対し、デジタル捺染は、短納期で必要な量だけ必要な時に生産ができ、版洗浄のための水を使わないため、水使用量を削減することができます。デジタル捺染技術を使い、環境への負荷を軽減した生産工程で、持続可能な社会へ貢献します。

■ 公益財団法人 エプソン国際奨学財団(日本)

公益財団法人エプソン国際奨学財団は、世界各国・地域から日本の大学院へ、また日本から海外の大学へ留学する優秀な学生に対して奨学金助成を行っています。多くの現役留学生にとって自らの生活費確保は重い課題ですが、特に日本人留学生にとって、昨今の急激な円安・物価上昇は生活の厳しさに拍車をかけています。そのような中、この奨学金は高い志を持って留学する学生たちに学びに集中する時間を与え、学ぶ意欲を後押しする力になっています。

同財団は1997年に設立され、これまでに311名の留学生(現奨学生含む)を支援してきました。同窓生は世界各地・各界で活躍しています。奨学生や同窓生の相互交流のため、採用式、セイコーエプソン会社見学会、同窓会入会式、同窓会などの行事も行われています。

また同財団ではこの他に、工学系の若手研究者への研究費助成、国際学術会議への参加費助成などの支援事業も行っています。



2023年度エプソン会社見学会

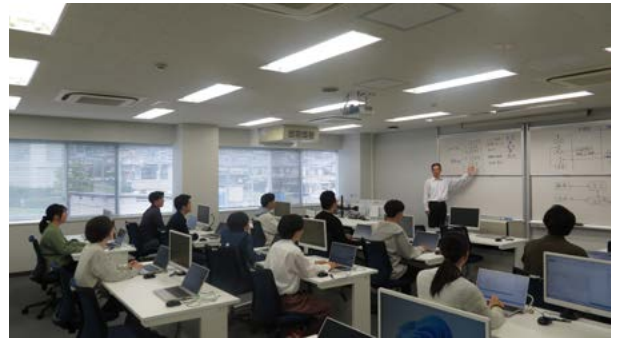


2024年度採用式

■ エプソン情報科学専門学校(日本)

当社は、地域社会に信頼され広く社会に貢献できる技術者を育成することを目的として、1989年にエプソン情報科学専門学校を開校しました。今日までに、2,900人を超える技術者が世の中に送り出されています。その中には当社で活躍していただいている方もいます。

講師陣の多くは、当社を含め企業の最前線で活躍してきた技術者・開発者で構成されています。カリキュラムは、実務に活かせる確かな技術を身につけられるよう組み込まれています。学科は、情報システム科・情報電子機械科・情報ビジネス科の3学科で構成されており、全ての学科において、文部科学省「職業実践専門課程」の認定校となっています。



■ 「セイジ・オザワ 松本フェスティバル」を支援(日本)

当社は、1992年の立ち上げから「セイジ・オザワ 松本フェスティバル」を継続支援しています。

このフェスティバルは、世界中から一流の音楽家が集まり、質の高い演奏を披露します。オーケストラコンサート、室内楽、オペラなど、さまざまなジャンルの音楽を提供しています。

子ども向けのプログラムも充実しており、長野県内の小学6年生、中学1年生、聾学校、盲学校、養護学校を対象に「子どものための音楽会」や「子どものためのオペラ」等が企画され、毎年約13,000名を招待しています。この教育プログラムは、子どもたちが生のオーケストラを聴く貴重な機会となり、音楽に興味を持つきっかけとなっています。



経済価値

目指す姿

コミットメント

アクション

【経済価値】

安定的な
経済的付加価値の再配分

国家間、地域間、
性別などの格差是正

格差解消

子ども支援

経済的自立

エプソンは、経済価値に関する社会支援活動として、格差解消、子ども支援、経済的自立の分野に取り組んでいます。

途上国の子どもたちへ給食を届ける活動への協賛～「おにぎりアクション」への参加～

「将来の夢は電気技師です。」

当社の社員がタンザニアを視察した時、支援先の子どもに言われた言葉です。給食提供が登校の動機となり、教育を受けたことにより、彼の職業選択の幅が広がりました。

当社では、2023年、TABLE FOR TWO International(以下、TFT)が開催している「おにぎりアクション」に協賛しました。おにぎりにまつわる写真に #OnigiriAction を付けてSNS(Instagram、X、Facebook)または特設サイトに投稿すると、1枚の写真投稿につき給食5食分に相当する寄付を協賛企業が提供し、アフリカ・アジアの子どもたちに給食をお届けする取り組みです。当社の社員も写真投稿を行い、約2,000枚(1万食相当)の写真が集まりました。

協賛先からのメッセージ

TABLE FOR TWO International ご担当者

「おにぎりアクション」は、一般の方が「おにぎり」の写真を投稿するというシンプルな行動で、世界の食料問題への気付きを持ち、その解決に参画できる社会貢献活動です。趣旨に賛同してくださる企業様のおかげで仕組みが成り立ち、異なる組織や個人それぞれの力が合わさって一つの社会課題を解決するソーシャルムーブメントとなっています。

TFTが支援するアフリカ・アジアの貧困地域では、学校給食は子どもたちの生きる糧です。お腹を満たすだけでなく、学びを続け、未来を切り開く希望にもなっております。今後もこの活動がサステナブルなものになるよう、エプソン様にも期待しております。



写真提供: TFT



■ 諏訪市 | エプソン 未来を担う子どもたちへの支援事業

当社と諏訪市は、2023年に諏訪市における未来を担う子どもたちへの支援を図るための環境・福祉連携協定を締結しました。福祉連携では、地域の子どもの経済的困窮などの解決のために活動しているNPOなど(以下、団体)への寄付を通して、子どもたちを支援します。

2023年は、地域のひとり親家庭、児童養護、ヤングケアラーを対象として活動をしている6つの団体を支援しました。



連携先からのメッセージ

諏訪市 ご担当者

日本では貧困による格差が拡大し、特にひとり親家庭やヤングケアラーなどにおける教育や生活の安定に向けたサポートが必要です。しかし、これらの支援は行政の力だけでは限界があり、特定テーマの専門性を持った団体との協働が、きめ細やかな支援に繋がっていきます。

一方、子どもの支援活動に取り組んでいる団体の課題の一つとして活動資金の確保が挙げられます。「未来を担う子どもたちへの支援事業」を通じて市とエプソンが連携し、団体を側面より支援することで、団体の自主性を活かした活動を支えながら、併せて地域経済の活性化にも貢献できます。

この取り組みは行政と民間企業と団体の三者連携の好事例であると捉えており、今後この取り組みが地域を超えて、日本全域へ活動が拡大することを期待しています。